

修士論文(要旨)

2012年1月

タクティールケアが施術者に及ぼす効果の検証
－気分の変化に焦点をあてて－

指導 長田久雄 教授

老年学研究科

老年学専攻

210J6006

木本明恵

目次

I. はじめに	1
1. 研究の背景	1
2. 先行研究	2
II. 研究の目的と意義	3
1. 目的	3
2. 意義	3
3. 操作的定義	3
III. 研究方法	4
1. 調査対象	4
2. 調査期間	4
3. 調査計画	4
4. 調査項目	4
5. 分析方法	6
6. 倫理的配慮	6
IV. 研究結果	6
1. 対象の特性	6
2. TC と N-TC における前後の TDMS 得点(活性度・安定度・快適度・覚醒度)の 被験者内 2 要因分散分析の結果	7
V. 考察	8
VI. 本研究の限界と今後の課題	10
VII. おわりに	10

謝辞

文献

資料

I. はじめに

認知症の症状の緩和、コミュニケーションツールとして、タクティールケアを導入している高齢者介護施設が増えている。Ardebey(2003)は、認知症の症状の緩和だけではなく、非言語的コミュニケーションとしても有効であると論じ、タクティールケアが、その施術者に対しても、有効であると述べている。

Scherder(1998)、鈴木ら(2010)は、タクティールケアによって認知症高齢者の BPSD の軽減、ストレスレベルが低下したことを明らかにした。Andersson(2007)、鈴木ら(2010)は、タクティールケアを行う施術者に対する報告をしている。タクティールケアが介護者、被介護者の双方に相互作用し合うことで、介護者の身体的・精神的負担の軽減となるか検証が必要である。

II. 研究の目的

タクティールケアが施術者である介護職員に対して、実施後、どのような気分の変化をもたらすのか、尺度を用いて明らかにすることである。

III. 研究方法

①調査対象:病院・高齢者介護施設の4か所で介護職員として勤務し、タクティールケアの手技において、一定の水準を満たしている41人。②調査計画:同一の対象者に対して、2週間の調査期間のうち、ある1週間は、タクティールケア(以後 TC とする)、ある1週間は、タクティールケア以外のケア(以後 N-TC とする)を実施し、前後に気分のセルフモニタリングを行った。結果に差が生じる可能性を考慮しクロスオーバーデザインとした。③調査項目:(1)基本属性として、性別、年齢、職種とその経験年数、TC 認定取得後月数と活用頻度を質問した。(2)気分の変化の評価:気分の変化については、二次元気分尺度を使用した。④分析方法:TC および N-TC 前後の気分の変化を TDMS 得点(活性度、安定度、快適度、覚醒度)で測定し被験者内2要因分散分析を行った。分析には IBM SPSS for Windows ver 19.0 を使用し、有意水準は5%未満に設定した。⑤倫理的配慮:2011年7月19日、桜美林大学研究倫理規定に基づき、研究倫理委員会の承認(受付番号:11013)を得た。

IV. 研究結果

対象の特性は、女性85.4%、男性14.6%であり、平均年齢は44.1±10.8歳。職種の内訳は、介護福祉士が43.9%で最も多く、TC認定平均取得月数は17.3±12.7ヶ月だった。2要因分散分析の結果、安定度、快適度は、交互作用と主効果すべて有意であり、N-TCよりTCにおいて後の得点が高く変化した。また覚醒度も3回目のTCとN-TCの主効果以外は交互作用と主効果すべてが有意であり、N-TCよりTCにおいて後の得点が低く変化した。

V. 考察

安定度、快適度においてTC後の得点がN-TCを実施した後よりも高かったことから、施術者がTCによって感じている「施術者の変化」とは、快適でポジティブな状態へ変化していることが推測される。心理的負担が多い介護職員がTCを施術することで、その負担を一時的にでも和らげる効果があることが示唆された。

VI. 本研究の限界と今後の課題

TCの施術によって、気分を一時的に快適にする効果が明らかになった一方で、精神的な負担の軽減になったかは不明である。一時的なものではなく、長期的な視点からの検討が課題である。

VII. おわりに

介護を受ける高齢者と、施術者である介護職員、双方の心理状態が落ち着く(Ardebey, 2003)ことが、タクティールケアを通して可能になるであろうと期待される。今回の研究結果において、タクティールケアを介護ケアに取り入れることの重要性が示唆されたと考えられる。

文献

- Andersson.K., Waˆndel.PI, Toˆrnkvist.L(2007) : Working with tactile massage—A grounded theory about the energy controlling system,Complementary Therapies in Clinical Practice 13, 258–265.
- Ardebey.S.(2003) : Tactile education.Tactile massage.Stockholm.http://www.taktil.se
- Ardebey S.,Krusebrant Å.&Rahm K(1990) : Taktil Massage,Taktil Utbildning AB,Örebro,Swedish.
- Berit C.(2004) : Is tactile foot massage beneficial in the nursing care of dying cancer patients.ERSTA SKÖNDAL HÖGSKOLA Institutionen för vårdvetenskap Magisteruppsats.
- Edvardsson,J.D.,Sandman,P-O.,Rasmussen,B.(2003):Meanings of giving touch in the care of older patients:becoming a valuable person and professional.Jouranl of Clinical Nursing.12:601-609.
- 鈴木みずえ, 牧野公美子, 菊池慶子(2001) : 「タクティールケアに関するアンケート」報告書. 浜松医科大学地域看護学講座.
- 牧野公美子, 他(2011) : 癒しを目的とした“人に触れるケア”の実践者に対する意識調査(第二報)—タクティールケア実践のケア意識の因子構造とその関連要因—日本認知症ケア学会誌, 10(2)339.
- 三好功峰(2003) : BPSD とは, 臨床精神医学, 29(10),1245 - 1248.
- 森本寛訓(2003): 高齢者施設介護職員の精神的健康に一考察 - 職務遂行形態を仕事の裁量度の視点から捉えて -, 川崎医療福祉学会誌, 13(2),263 - 269.
- 坂入洋右, 他(2003) : 心理的覚醒度・快適度を測定する二次元気分尺度の開発. 筑波大学体育科系紀要. 26 : 27-36.
- 坂入洋右, 征矢英昭(2003) : 新しい感性指標～運動時の気分測定～. 体育の科学. 53(11)845-850.
- 坂入洋右, 征矢英昭, 木塚朝博(2003) : TDMS 手引き Two-dimensional Mood Scale～二次元気分尺度～, アイエムエフ株式会社, 東京.
- Scherder.E,Bouma.A,and Steen.L(1998):Effects of peripheral tactile nerve stimulation on affective behavior of patients with probable Alzheimer’s Disease ,AM J ALZHEIMERS DIS OTHER DEMEN March/April 13.61-69
- Socialstyrelsen.(1998):Taktil massage.Ådel 50.Artikelnr:1997-25-013.Stockholm:Norstedts Tryckeri AB,tredje tryckningen.
- Suzuki M,et al(2010):Physical and Psychological Effects of 6-Week Tactile Massage on Elderly Patients With Severe Dementia, American Journal of Alzheimer’s Disease & Other Dementias, 25(8) 680-686.
- タクティールケア普及を考える会(2009) : タクティールケア入門[第2版], 日経 BP 出版センター, 東京.
- 田中かず子(2008) : 「感情労働としてのケアワーク」『ケア その思想と実践2 ケアするということ』. 岩波新書, 東京.
- 上野千鶴子(2008) : 「ケアされるということ—思想・技法・作法」『ケア その思想と実践3 ケアされるということ』. 岩波新書, 東京.
- Uvnäs-Moberg, K.(2001):Lugn och beröring - Oxytocin läkande verken i kroppen.Natur och Kultur,Stocholm.